

学校教育実践学研究, 2018, 第24巻, 123 - 129頁

初任者用実践的指導力向上ハンドブックと 指導教員用初任者支援ハンドブックの開発と運用 (2)

—初任者教員と指導教員による運用を通じた成果と課題—

米沢 崇・中井 悠加

(2017年12月21日受理)

Development and Operation of the Handbooks for Initial Teachers and Mentors (II):
The Results and Issues through the Use by Initial Teachers and Mentors

Takashi YONEZAWA and Yuka NAKAI

The purposes of this research are: (1) develop tools to innovate the learning environments of initial primary school teachers to grow as continuous learners, (2) examine their effectiveness to clarify the ways of initial teacher training. There are still many problems remaining e.g. the ability difference between mentors; connection of teacher trainings at on-site and out-side schools; learning environments for initial teachers. In response, we designed a standard of teaching competencies consists of eight categories and developed some tools accordingly: two handbooks for initial teachers and mentors; a teaching competencies rubric. We distributed these tools to all initial teachers and their mentors in Hiroshima prefecture to try them. Then we examined their effectiveness, possible uses, and development potential through a questionnaire survey targeting at only those who provided their consent its concept and method. The data from free descriptions was analyzed and considered by applying subject classification which is one of the text-mining approaches. As a result, we could extract their usage based on each teacher's practice task and experience, effectiveness, and improvement potential. Our findings are beneficial as a fundamental material to consider about an effective support for initial teachers and their required competencies in contemporary world.

Key words : Initial teacher, Mentor teacher, In-service teacher training

はじめに

本稿では、広島大学が広島県教育委員会の協力のもと、開発・運用してきた「初任者用実践的指導力向上ハンドブック」と「指導教員用初任者支援ハンドブック」の使用者の評価に焦点を当てて初任者教員支援ツールの効果を検証する。

2012年8月の中央教育審議会「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について(答申)」において、「学び続ける教員像」を確立するため、大学の知を活用した現職研修の充実を図る仕組みを構築することなどが提言された。また、教員の大量退職・大量採用に伴う年齢・経験年数の不均衡による弊害から、初任者研修に

よって初任者教員(以下、初任者)の資質能力を向上させることが従来以上に求められ、多くの教育委員会・学校・大学が連携・協働し、初任者研修の改善・充実に取り組んでいる。

そのような中、広島大学では、「平成25-26年度独立行政法人教員研修センター(現独立行政法人教職員支援機構)大学委託事業」の採択を受けて、広島県教育委員会と連携・協働し、学び続ける教員の基礎・基盤を構築する初任者研修支援プログラムの開発に取り組んできた(広島大学, 2015; 米沢他, 2015)。その取組のひとつとして、校外研修と校内研修を接続し、初任者の実践的指導力を向上させるための「初任者用実践的指導力向上ハ

ンドブック」と指導教員が初任者の指導を行うにあたって有用な指導教員用「初任者支援ハンドブック」を開発・運用し、初任者の実践的指導力の向上を目指してきた。

先行して発表した鈴木他（2016）では、初任者用・指導教員用ハンドブックの開発経緯や概要などについて報告した。その中では、開発・運用するだけに留まらず、これらのハンドブックを、持続可能な初任者教員支援ツールとして運用するために、それを実際にどのように使用し、どのように感じているのかという初任者および指導教員からの声をフィードバックすることが肝要だと指摘した。それを受けて、事業終了後の1年間、本格的な運用を続け、内容の改善及び効果的な使用方法の確立に向けた検証を重ねることとした。

事業終了後ではあるが、軌を一にするように、2015年12月の中央教育審議会「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申）」において、「教員は学校で育つ」との考えの下、教員の学びを支援する現職研修の改革（継続的な研修の推進、初任研改革、十年研改革、管理職研修改革）の必要性が指摘された。このことから、初任者研修の支援に向けたプログラムやツールの開発は非常に重要なものであり、今後も継続して取り組まなければならない喫緊の課題であるといえよう。

以上のことから、これまで開発・運用してきた初任者教員支援ツールの効果的な運用方法を確立するための基礎的知見を得ることは、いかに「学び続ける教員」としての基礎・基盤を初任者に築いていくかという初任者研修改革に有用な知見を提供するものと考えられる。

初任者教員支援ツールの概要

ここでは、開発した初任者教員支援ツールの概要について簡単に述べる。ツールの詳細な概要については、鈴木他（2016）を参照されたい。

開発に先だって、広島大学（2013）において行った現職教員（初任者、2年目研修対象者、6年目研修対象者）を対象とした調査によって、授業力およびコミュニケーション／省察力について「身に付けるべき」と思っているものの、実際に「身に付いた」と思っていないことが明らかになった。また、時田（2010）や米沢（2011）など、初任者研修に関する先行研究のレビューから、校内研修と校外研修の接続の課題や、初任者を支える指導

教員の役割の重要性が明らかになった。これらのことから、初任者の実践的指導力育成や指導教員への支援、さらに校内外における研修の接続を促進することに資するツールの開発を目指した。

1. 授業力スタンダード・ルーブリックの概要

「学び続ける教員」を目指すために、初任者が採用後から3年修了まで、いわゆる「新任期」で身に付けるべき授業力の指標として「授業力スタンダード・ルーブリック」を作成した。そこでは、授業力を8つの領域（「学習規律」「実態の把握」「教材研究」「授業の分析・評価」「学習指導案」「発問」「板書」「机間指導」）に分け、それぞれの領域に3段階の到達レベルを設けた（鈴木他（2016）p.233参照）。

なお、この授業力スタンダード・ルーブリックは、後述する初任者用ハンドブックに含まれるとともに、指導教員にもリーフレットとして配付し、初任者の振り返り（省察力）を向上させるために活用するツールとして用いた。

2. 初任者用実践的指導力向上ハンドブックの概要

「初任者用実践的指導力向上ハンドブック」は、初任者教員の実践的指導力の向上を目指しており、次のような内容で構成されている（鈴木他（2016）pp.231-232, p.235参照）。

- ① 自分自身の授業力の到達度を確認するための**授業力スタンダード・ルーブリック**（上述）および受講する初任者研修内容との対応を確認する**初任者研修マップ**
- ② 初任者研修のスケジュールを確認するための**初任者研修の手引**
- ③ 1年間の初任者研修で学んだことを整理するための**研修内容振り返りシート**
- ④ 初任者研修における模擬授業を映像で振り返るため、映像を記録した**DVDを蓄積できるポケット**

3. 指導教員用初任者支援ハンドブックの概要

先述の授業力を構成する8領域ごとに、初任者の授業力を向上させる上での指導・助言のポイントなどを記載している。具体的には、各領域に関連する目的や内容などの初任者に伝えるべき基礎的・基本的な事項に加え、それらを初任者に助言する際のポイントや留意点を記した。さらに、大学教員や先輩指導教員からの「ひと言アドバイス」やおすすめの本・資料の情報も含めることで、指

導教員自身が学び続けることができるようにしている（鈴木他（2016）pp.235-236 参照）。

運用を通じた成果と課題

1. 配付と運用

初任者用ハンドブックと指導教員用ハンドブックについては、以下の手続きで配付し、利用してもらった。

初任者用ハンドブックについては、2015年4月に平成27年度広島県初任者研修第1回で初任者160名に配付した。その際、初任者用ハンドブックの意図や簡単な利用方法について説明するとともに、同様の内容を記したリーフレットも配付した。

指導教員用ハンドブック（授業力スタンダード・ルーブリック含む）については、2015年4月の平成27年度初任者研修指導教員等連絡協議会において、指導教員118名に配付した。その際、指導教員用ハンドブックの意図や簡単な利用方法について説明するとともに、同様の内容を記したリーフレットも配付した。

2. ハンドブックの評価に関する調査の概要

ハンドブックを利用した初任者と指導教員の評価を把握するため、質問紙調査を行った¹。

（1）調査対象と手続き

調査は、2015年度広島県内の初任者160名、指導教員118名を調査対象に、2016年2月に、郵送法による無記名形式の質問紙調査を実施した。その結果、初任者88名（回収率55.0%）、指導教員93名（回収率78.8%）から回答が得られた。

（2）調査項目（初任者）

- ① 研修内容振り返りシートの利用状況について把握するため、「研修内容振り返りシートを利用したか。」と尋ね、「1. 利用した」「2. 利用していなかった」の2件法で回答を求めた。
- ② ①において、「1. 利用した」を選択した者については、「研修内容振り返りシートを利用して、どのような効果があったか。」と尋ね、自由記述形式で回答を求めた。
- ③ 研修資料の蓄積状況について把握するため、「研修資料を保存しているか。」と尋ね、「1.

保存している」「2. 保存していない」の2件法で回答を求めた。

（3）調査項目（指導教員）

- ① ハンドブックの利用状況について把握するため、「ハンドブックを利用したか。」と尋ね、「1. 利用した」「2. 利用していない」の2件法で回答を求めた。
- ② ①において、「1. 利用した」を選択した者については、「ハンドブックは参考になったか。」と尋ね、「1. 参考にならなかった」「2. あまり参考にならなかった」「3. 少し参考になった」「4. 参考になった」の4件法で回答を求めた。
- ③ 「ハンドブックを利用して、どのような効果があったか。」と尋ね、自由記述形式で回答を求めた。
- ④ 授業力スタンダード・ルーブリックの利用状況について把握するため、「ルーブリックを利用したか。」と尋ね、「1. 利用した」「2. 利用していない」の2件法で回答を求めた。
- ⑤ ④において、「1. 利用した」を選択した者については、「ルーブリックは参考になったか。」と尋ね、「1. 参考にならなかった」「2. あまり参考にならなかった」「3. 少し参考になった」「4. 参考になった」の4件法で回答を求めた。
- ⑥ 「ルーブリックを利用して、どのような効果があったか。」と尋ね、自由記述形式で回答を求めた。

（4）分析方法

自由記述（初任者②、指導教員③⑥）については、ジャストシステムのTRUSTIA/R.2を用い、テキストマイニングの一つである主題分類を行い、分析・考察した。テキストマイニングおよび主題分類については、ジャストシステム（2007）を参照のこと。その他の項目についてはIBMのSPSS/22を用いて基礎集計を行い、分析・考察した。

3. 結果と考察

（1）研修内容振り返りシートの利用状況

回答した初任者教員88名のうち、実際に研修内容振り返りシートを利用したのは33名（37.5%）

¹ この他に、本研究では面接調査を2回（1回目：2015年8月、2回目：2016年2月）実施した。調査の概要については鈴木他（2016）を参照されたい。紙幅の関係で、面接調査の詳細な結果は割愛するが、面接調査からは、次の3点が明らかになった。①初任者用ハンドブックが資料の整理と蓄積に役だっていること、②指導教員用ハンドブックは指導教員に有用な知識を与えていること、③授業力スタンダード・ルーブリックは自己評価・自己省察に役立っていること。これらの結果は、質問紙調査の結果を補完するものと考えられる。

と、決して利用した割合は高くない（表 1）。

表 1 研修内容振り返りシートの利用状況

| | 度数 | % |
|--------------|----|------|
| 1. 利用した | 33 | 37.5 |
| 2. 利用していなかった | 55 | 62.5 |
| 計 | 88 | 100 |

(2) 研修内容振り返りシートを使用した効果

しかし、(1)において「1. 利用した」を選択した者の自由記述の分析結果からは、研修内容振り返りシートの有用性を指摘できる。

図 1 は、研修内容振り返りシートを利用した効果に関する記述を主題分類した結果である。25 件の記述の 1 文書あたりの平均語句数は 19 語、1 文書あたりの平均文字数は 28 文字であった。単語のうち名詞句 24%、形容詞句 6%、副詞句 0%、動詞句 24%、その他 46%であった。主題分類の結果、【項目】【課題】【成長】のクラスターが得られ、その特徴は次の通りである。

【項目】では、「これまでの研修の内容を振り返るとともに、次回の研修への意欲づけとなりました。」など、振り返りのきっかけになったという記述が挙げられた。

【課題】では、「振り返りを行うことで課題が明確になり、改善へと繋がりました。」など、課題の明確化や改善への糸口になったという記述が挙げられた。

【成長】では、「一学期の時に不安だったことなど振り返ることができ、自身の成長を確認することができた。」など、自身の成長を実感することになったという記述が挙げられた。

以上のことから、初任者用ハンドブックが研修内容の振り返りの契機となるとともに、自身の成長や課題の明確化につながっていると考えられる。

(3) 研修内容の蓄積状況

回答した初任者教員 88 名のうち、研修資料を初任者用ハンドブックに実際に蓄積したのは 69 名（78.4%）であった（表 2）。7 割以上が、研修資料を蓄積していることから、初任者用ハンドブ

ックが初任者研修の資料の整理と蓄積に役立っているということが窺える。

表 2 研修資料の蓄積状況

| | 度数 | % |
|------------|----|------|
| 1. 保存している | 69 | 78.4 |
| 2. 保存していない | 19 | 21.6 |
| 計 | 88 | 100 |

(4) 指導教員用ハンドブックの利用状況

回答した指導教員 93 名のうち、指導教員用ハンドブックを利用したのは 65 名（69.9%）であった（表 3）。

表 3 指導教員用ハンドブックの利用状況

| | 度数 | % |
|------------|----|------|
| 1. 利用した | 65 | 69.9 |
| 2. 利用していない | 28 | 30.1 |
| 計 | 93 | 100 |

(5) 指導教員用ハンドブックの使用実感

(4)において「1. 利用した」を選択した者の 9 割以上が、指導教員用ハンドブックについて参考になると考えていた（表 4）。

表 4 ハンドブックの使用実感

| | 度数 | % |
|-----------------|----|------|
| 1. 参考にならなかった | 0 | 0.0 |
| 2. あまり参考にならなかった | 0 | 0.0 |
| 3. 少し参考になった | 26 | 40.0 |
| 4. 参考になった | 38 | 58.5 |
| 無回答 | 1 | 1.5 |
| 計 | 65 | 100 |

(6) 指導教員用ハンドブックを利用した効果

(4)において「1. 利用した」を選択した者の自由記述の分析結果からは、具体的にどのような点において参考になったのかということが窺知さ

| デンドログラム表示 | 分類名 | 文書数 | 信頼度(%) | 代表語句 | 類似度 |
|-----------|------|-----|--------|------------------|----------|
| | ■ 項目 | 12 | 16 | 項目/記録/研修/振り返り/指し | 0.514507 |
| | ■ 課題 | 8 | 80 | 課題/改善/学期/自身/手だて | 0.620859 |
| | ■ 成長 | 5 | 100 | 成長/確認/自身/学期/課題 | 0.776228 |

図 1 初任者用ハンドブックを利用した効果

れる。

図2は、指導教員用ハンドブックを利用した効果に関する記述を主題分類した結果である。63件の記述の1文書あたりの平均語句数は33語、1文書あたりの平均文字数は51文字であった。単語のうち名詞句32%、形容詞句4%、副詞句2%、動詞句17%、その他45%であった。主題分類の結果、【内容】【初任】【おすすめ】【指導】のクラスターが得られ、その特徴は次の通りである。

【内容】では、「初任者指導教員として、指導・支援を実施する際、また、実施した後に指導内容について確認・補充する時に利用することができました。」など、指導内容の確認に有用であったという記述が挙げられた。

【初任】では、「初任研に活用する為、熟読。自分が準備、活用した資料と照合し、活用しようとした。」など、初任者支援に役立てたという記述が挙げられた。

【おすすめ】では、「知っていることと、実践できることは、別問題ということを実感し「おすすめの本・資料」や「大学教員からひと言」を読んで、参考になった。」など、おすすめ図書などを使用して、指導教員としての学びや視野が広がる契機となったことが挙げられた。

【指導】では、「それぞれのカテゴリーについて(A~H)、助言の際の「ポイント」や「留意点」「先輩指導教員からのひと言」を参考にした。」など、授業力の8つの領域を視野に入れた指導についての記述が挙げられた。

以上のことから、指導教員用ハンドブックが初任者の授業力の向上に向けた支援をする際の有用な情報を提供するとともに、おすすめ図書等の情報から、指導教員としての学びを広げたり深めたりしていることが読み取れる。

(7) 授業カスタンダード・ルーブリックの利用状況

回答した指導教員93名のうち、授業カスタンダード・ルーブリックを実際に利用したのは45名(48.4%)と、約半数が使用していた(表5)。

表5 ルーブリックの利用状況

| | 度数 | % |
|------------|----|------|
| 1. 利用した | 45 | 48.4 |
| 2. 利用していない | 48 | 51.6 |
| 計 | 93 | 100 |

(8) 授業カスタンダード・ルーブリックの使用実感

しかし、(7)において「1. 利用した」と回答した者のうち、「3. 少し参考になった」「4. 参考になった」を選択した者は43名(95.6%)と高く、授業カスタンダード・ルーブリックの有用性を指摘することができる(表6)。

表6 ルーブリックの使用実感

| | 度数 | % |
|-----------------|----|------|
| 1. 参考にならなかった | 0 | 0.0 |
| 2. あまり参考にならなかった | 2 | 4.4 |
| 3. 少し参考になった | 18 | 40.0 |
| 4. 参考になった | 25 | 55.6 |
| 計 | 45 | 100 |

(9) 授業カスタンダード・ルーブリックを使用した効果

さらに、授業カスタンダード・ルーブリックを利用した指導教員の自由記述の分析結果からは、授業カスタンダード・ルーブリックの有用性についてより具体的に指摘することができる。

図3は、授業カスタンダード・ルーブリックを利用した効果に関する記述を主題分類した結果である。39件の記述の1文書あたりの平均語句数は36語、1文書あたりの平均文字数は56文字であった。単語のうち名詞句29%、形容詞句5%、副詞句1%、動詞句19%、その他46%であった。主題分類の結果、【評価】【学期】【指導】【初任者】のクラスターが得られ、その特徴は次の通りである。

| デンドログラム表示 | 分類名 | 文書数 | 信頼度(%) | 代表語句 | 類似度 |
|-----------|------|-----|--------|-------------------|----------|
| | 内容 | 11 | 36 | 内容/指導内容/確認/指導/利用 | 0.651205 |
| | 初任 | 11 | 45 | 初任/初任者/学級/経営/学級経営 | 0.558727 |
| | おすすめ | 5 | 83 | おすすめ/本/資料/参考/別 | 0.812827 |
| | 指導 | 36 | 40 | 指導/授業/研修/教科/一般 | 0.277628 |

図2 指導教員用ハンドブックを利用した効果

【評価】では、「自己評価の際にチェックしやすかった。不十分な点については、ハンドブックと対応しているので再度、研修し資質を高めるようにした。」など、初任者自身の自己評価とその支援に有用であったとする記述が挙げられた。

【学期】では、「学期ごとに（学期中間）教育実践をふり返りチェックを入れて成果（向上したところ）と課題を明らかにするのに活用した。」など、定期的な振り返りと課題の明確化に活用したとする記述が挙げられた。

【指導】では、「授業力の領域などポイントがよく分った。不十分と思われる部分について再度研修を行うようにした。」など、指導すべき内容の明確化に関する記述が挙げられた。

【初任者】では、「これからの見通しがもてても初任者も意欲が出てきた。」など、本スタンダード・ルーブリックが持つ、初任者指導への有用性についての記述が挙げられた。

以上のことから、指導教員から見ると、授業力スタンダード・ルーブリックは初任者の自己評価や指導教員自身の授業観察や分析の指標となっていることが分かる。

おわりに

本稿では、広島大学が広島県教育委員会の協力のもと、開発・運用してきた初任者用ハンドブックと指導教員用ハンドブックの使用者の評価に焦点を当てて初任者教員支援ツールの効果を検証した。以下では得られた知見を要約しまとめたい。

鈴木他（2016）で行った面接調査は、配付後数ヶ月時点での実施であった。本稿は、1年間を通して運用した後に質問紙調査によって得られた初任者支援ツールの評価である。質問紙調査で得られた知見は、面接調査で得られた知見と符号し、それを裏付けるものであった。すなわち、次の3点である。

① 「初任者用実践的指導力向上ハンドブック」は初任者研修の資料の整理と学びの蓄積に役立っていること。さらに、初任者用ハンドブックが研修内容の振り返りの契機となると

もに、自身の成長や課題の明確化につながっていること。

② 「指導教員用初任者支援ハンドブック」は、初任者を指導・助言する上での有用な知識を提供するだけでなく、おすすめ図書等の情報から、指導教員としての学びを広げたり深めたりしていること。

③ 「授業力スタンダード・ルーブリック」は、初任者の自己評価や指導教員自身の授業観察や分析の指標となっていること。

以上のことから、本研究で開発した初任者教員支援ツールは、初任者の実践的指導力を高めたり、そのための様々な支援を円滑にすることに対して、一定の貢献ができたと思われる。

最後に、本研究のような取組は学習者（初任者）を教育するのではなく、学習者を支援する取組、すなわちインストラクション（ガニエ, 2007）であると捉えることが重要である。従って、本研究の取組を継続的に行うためには、そのプロセスを、インストラクショナル・デザイン（Instructional Design:以下 ID）の視点に立って分析・考察していくことが求められる。今後は、IDの視点から、さらなる初任者教員支援ツールの効果的な運用方法および活用方法を確立していきたい。

引用・参考文献

Cronje, J.(2013), What is This Thing Called “Design” in Instructional Design Research? —The ABC Instant Research Question Generator, in Moreira, António et al. (eds.), *Media in Education: Results from the 2011 ICEM and SIIE Joint Conference*, Springer.

Gagné, R. M. et al. (2004), *Principles of Instructional Design (5th ed.)*, Wadsworth Publishing Company.

R.M. ガニエ, W.W.ウエイジャー, K.C. ゴラス, J.M. ケラー著(鈴木克明・岩崎信 監訳)(2007), *インストラクショナルデザインの原理*, 北大路書房.

広島大学(2013). *大学と教育委員会による新たな連携・協働型初任者研修プログラムのモデル開*

| デンドログラム表示 | 分類名 | 文書数 | 信頼度(%) | 代表語句 | 類似度 |
|-----------|-------|-----|--------|------------------------|----------|
| | ■ 評価 | 8 | 56 | 評価/自己評価/自己スタンダード/スタンダー | 0.550784 |
| | ■ 学期 | 10 | 26 | 学期/年度/把握/自分/目標 | 0.498498 |
| | ■ 指導 | 12 | 51 | 指導/領域/授業/参観/授業力 | 0.455438 |
| | ■ 初任者 | 9 | 81 | 初任者/加任/指導教員/教員/研修 | 0.645576 |

図3 授業力スタンダード・ルーブリックを利用した効果

発に関する研究 平成 24 年度文部科学省委託事業「教員の資質能力向上に係わる調査検討事業」成果報告書.

広島大学(2015). 学び続ける教員の基礎・基盤を構築する初任者研修支援プログラムの開発—教育委員会・学校・大学で初任者を支えることを目指して—平成 25-26 年度独立行政法人教員研修センター委託事業「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」成果報告書.

ジャストシステム(2007). テキスト分析システム Mining Assisat 分析の手引き, 株式会社ジャストシステム.

鈴木由美子・米沢崇・中井悠加・大里剛・西本正頼・佐々木哲夫・幸坂健太郎・久保研二・宮木秀雄(2016). 初任者用実践的指導力向上ハンドブックと指導教員用初任者支援ハンドブックの開発と運用(1)—学び続ける教員の基礎・基盤の構築を目指して—学校教育実践学研究, 22, 229-240.

時田詠子(2010). 校内指導教員による初任者の力量形成についての一考察—初任者の力量の受け止め, 指導の基本方針に視点をあてて—, 日本教師教育学会年報, 19, 90-100.

米沢崇(2011). 校内指導教員の指導・支援が初任者の力量形成に及ぼす影響—教職経験年数 2~3

年目の若手教員を対象とした調査の結果から—, 教師教育学会年報, 20, 88-98.

米沢崇・幸坂健太郎・竹谷浩子・鈴木由美子・井上弥・伊藤圭子・山崎敬人・中村和世・永田忠道(2015). 学び続ける教員の基礎・基盤を構築する初任者研修支援プログラムの開発—教育委員会・学校・大学で初任者を支えることを目指して—日本教育大学協会研究年報, 33, 189-200.

付記

本研究は, 平成 25-26 年度独立行政法人教員研修センター委嘱事業「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」終了後も継続して取り組んだ成果の一部である。なお, 本稿は WERA Focal Meeting & HKERA International Conference (2017 年 11 月 30 日, 香港)での発表内容 (Innovations of Learning Environments for Novice Primary Teachers in Contemporary Japan: Towards Fostering Teachers as Continuous Learners) を加筆・修正したものである。

本研究は, JSPS 科学研究費補助金基盤研究(B)(一般)「「学び続ける教員」を支えるアクティブ・ラーニング型教員研修プログラムの開発」(JP 16H03765)の助成を受けている。